

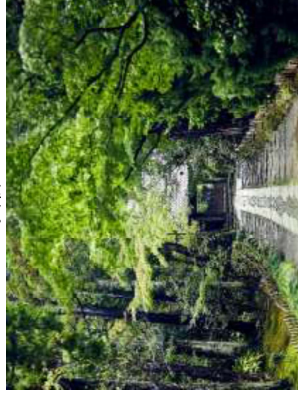
寺・無量寿院や甘縄の邸宅があったと考えられています。敷地内の発掘調査では鎌倉時代後期の池の跡や礎石が見つかかり、安達氏に関係する遺構の可能性が指摘されています。

▲ 鎌倉市扇ガ谷 1-5-1

寿福寺

扇ガ谷エリア

▲ ゆかりの人物：源頼朝・北条政子・源実朝



当寺の一带には源頼朝の父・義朝の館があったといわれ、その後、北条政子が明庵栄西を開山として伽藍を建立しました（現在、拜観は中門までです）。裏山の墓地にあるやぐらには、源実朝、政子の墓と伝わる五輪塔があります。

▲ 鎌倉市扇ガ谷 1-17-7

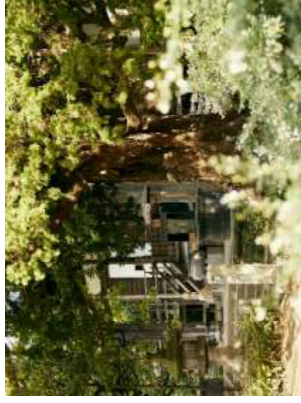
宝戒寺

小町・大町エリア

▲ ゆかりの人物：北条義時・歴代北条得宗家

北条義時が屋敷を構えて以来、代々北条得宗家の邸宅があった場所に建てられた寺院です。

幕府滅亡後、北条一門の菩提を弔うために後醍醐天皇が足利尊氏に命じて建立しました。

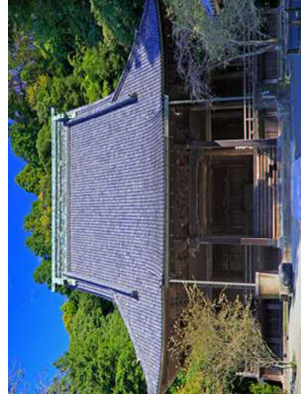


▲ 鎌倉市小町 3-5-22

妙本寺

小町・大町エリア

▲ ゆかりの人物：比企能員・竹御所



妙本寺がある比企谷は、比企一族の屋敷跡とされます。境内には源頼朝の息子・一幡の袖塚や比企一族の墓と伝えられる石塔など、一族の悲劇が伝わります。また、付近には頼家の娘で4代将軍九条頼経正室の竹御所の墓所があります。

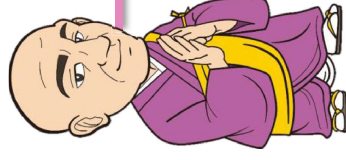
比企能員の子・能本が後に日蓮の弟子となり、日蓮と一族のために堂を建てたのが妙本寺の始まりといわれています。

北条時政

北条義時や源頼朝の妻・政子の父で、頼朝が挙兵すると一族をあげて頼朝を支えました。平氏が滅亡し、頼朝とその弟・源義経が対立すると、時政は頼朝の代官として京都へ上り、政治的な交渉や京都の治安維持にあたりました。

頼朝が亡くなると、2代目の鎌倉殿・源頼家のもと、**13人の重臣**に選出されますが、頼家の妻・比企氏との間に**権執**が生まれます。時政は比企能員を自邸に招き殺害、**比企一族を滅亡させ、源実朝を鎌倉殿に立てました。**

その後、有力御家人の畠山重忠・重保父子を誅殺し、後妻・牧の方との娘婿・平賀朝雅を鎌倉殿に立てようとしたが、**政子・義時と対立して失脚し、退いた伊豆で10年を過ごした後、亡くなりました。**



安達盛長

あだち もりなが

03

三河国（今の愛知県）を本拠とする小野田氏の分流の生まれであったともいわれますが、明らかではありません。藤九郎と称し、伊豆で流人生活を送る**源頼朝を側近**として支え、頼朝の挙兵に当たっては、相模国（今の神奈川県）や下総国（今の千葉県）の武士たちのもとを訪れ、参加を呼び掛けています。

無量寺谷という谷の入り口付近にあったと考えられる盛長の邸宅には、頼朝も度々訪れていて、幕府成立後も頼朝に目を掛けられていたことがわかります。

頼朝の死により出家し、新しい鎌倉殿である頼家を支える**13人の重臣**にも選ばれましたが、翌年、頼朝の後を追うかのように亡くなりました。

04

梶原景時



鎌倉の梶原を本拠とした武士で、源頼朝が挙兵すると、頼朝と敵対する平家の勢力である大庭景親側につきますが、石橋山の合戦で頼朝の危機を救い、以来頼朝の信頼を得て活躍します。平家追討の際には源義経のもとで侍大将として出陣し、朝廷との連絡・調整役もつとめました。

京都の貴族・徳大寺家に仕えていた経験から文化的な素養も高く、京都の貴族社会の人々とも交流があり、歌道や音曲にも通じていました。しかし、頼朝の死後、源頼家に對して結城朝光が異心を抱いていると讒言したことなどにより、御家人らの弾劾で失脚し、翌年戦死しました。



ひきよしかず 比企能員

源頼朝の乳母・比企尼の養子で、この縁から頼朝の挙兵に従い信任を得ました。源頼家が誕生すると、能員の妻や、比企尼の娘が乳母に選ばれました。また頼家は、能員の娘・若狭局を妻としたことから、比企一族を頼りました。

一方で、頼家の祖父にあたる北条時政は、頼家が病で危篤となると、頼家の息子・一幡と頼家の弟・千幡（のちの美朝）に頼家が就いていた役職などを分割譲与することを定めました。これを知った頼家は、能員に時政の追討を相談しましたが、時政は能員を自邸へ招き、殺害します。比企一族は、北条義時らの軍に攻め込まれ、自害しました。

なお、大変美しいと評判であった北条義時の妻・姫の前は、能員の姪にあり、この乱を期に義時と離別したと考えられています。

立した寺院です。五体の明王を祀ることから五大堂とも称されました。

近隣に大江広元を祀る大江稻荷があり、観音堂にはその御神体も安置されています。

鎌倉市十二所 32

雪ノ下エリア 鶴岡八幡宮

ゆかりの人物：源頼朝・源実朝・北条義時



源頼義が石清水八幡宮を由比郷鶴岡（現在の由比若宮）に御請したことに由来します。治承4年（1180年）に源頼朝が現在地に遷し、放生会や流鏑馬を奉納しました。

以来幕府の公的行事の場となった鶴岡八幡宮は、源氏の氏神・幕府の守護社として御家人等の崇敬を集めました。幕府滅亡後も、後統する足利、後北条、徳川などから武門の守護神として信仰されました。

鎌倉市雪ノ下 2-1-31

雪ノ下エリア 大倉幕府跡

ゆかりの人物：源頼朝・13人全員

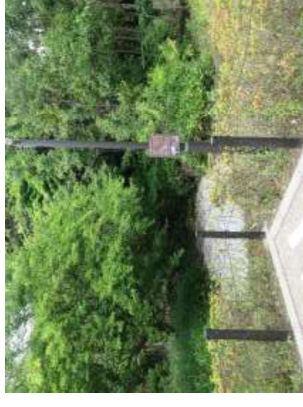


源頼朝が大倉に御所を構え、幕府を開いたことから、便宜上、大倉幕府といえます。頼朝の御所の周囲には、有力御家人の宿所や幕府の役所が置かれていました。江戸時代の地誌から推定して、現在の清泉小学校の敷地を中心とする地域にあったと考えられています。

鎌倉市雪ノ下 3丁目

雪ノ下エリア 無量寿院跡

ゆかりの人物：安達盛長



鎌倉歴史文化交流館が建つ谷は無量寺谷と呼ばれ、近辺には安達氏の菩提

堂へと移されました。

来迎寺の近隣にあった太平寺は、頼朝が自らを助けた池頼庵の姪を開山として建立したと伝わり、その客殿(仏殿とも)は円覚寺に移され、舍利殿として現存します。

📍鎌倉市西御門1-11-1

覚園寺

西御門・二階堂エリア

📍ゆかりの人物：北条義時



吾妻鏡に記された北条義時の危機を救った靈験をもつ戌神将を祀った大倉薬師堂が、覚園寺の前身とされています。現在の薬師堂に安置されている十二神将は室町時代のものですが、鎌倉北条氏の信仰を今日まで受け継ぐ寺院の一つです。

📍鎌倉市二階堂 421

永福寺跡

西御門・二階堂エリア

📍ゆかりの人物：源頼朝・二階堂行政
源頼朝が奥州合戦で亡くなった人々を供養するために建立した寺院の跡です。

発掘調査により、本堂・阿弥陀堂・薬師堂が複廊でつながり、池を臨む浄土式庭園をそそねえた伽藍であったとわかり、建物の基礎、池等が復元整備されています。

本堂は二階堂とも呼ばれ、地名にもなっています。近辺に居を構えた藤原行政は二階堂氏を称しました。

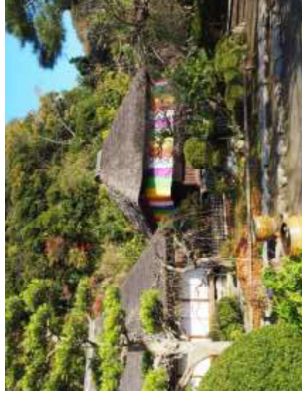


📍鎌倉市二階堂 209

明王院

十二所エリア

📍ゆかりの人物：九条頼経（三寅）



3代将軍源実朝が暗殺されると、北条政子、北条義時は頼朝の遠縁にあたる九条頼経を京都から鎌倉に迎え、将軍に擁立しました。

当寺は4代将軍頼経が御願寺として建

06

三浦 義澄



相模国の在庁官人で、三浦郡を本拠とした武士です。源頼朝が拳兵すると、義澄ら三浦一族は石橋山に向かいましたが、川の増水に阻まれ合流できず、三浦へ戻る途中、武蔵国（今の東京都、埼玉県及び神奈川県の一部）の武士・島山重忠（のちに頼朝に臣従）に遭遇し、合戦になります。さらに後日、平家の軍勢が三浦氏の本拠地・衣笠城に攻め入ると、老齢の義澄の父・義明は城に立てこもり、頼朝への加勢を託して自害しました。一方、義澄ら一族は海上へと逃れ、石橋山の合戦で安房国に敗走した頼朝を助けました。

頼朝が没し、源頼家が鎌倉殿を継ぐと、鎌倉殿を支える13人の重臣に選ばれますが、翌年死去しました。その後、義澄の子・義村は、北条氏に協力的でその勢力を強めていきました。

和 だ よしもり 和田 義盛

相模国の三浦郡和田を本拠地とする武士で、義盛は三浦義澄の甥にあたります。源頼朝の拳兵に義澄らとともに参加し、頼朝が安房国へ脱出した後は常に頼朝に近侍してその信頼を得、のちに御家人の統制を行う侍所の別当（長官）となりました。



頼朝が死去し、義盛に替わって侍所別当に就いていた梶原景時が失脚すると、侍所別当に再任された。

しかし、一族の中に源実朝の廃位と北条氏の排斥を企てた者が居たことをきっかけに、2日間で数千人の死傷者を出すほど大きな市街戦・和田合戦が起こります。義盛は三浦義村の寝返りもあって敗れ、敗死しました。

あだちとおもと 08 足立 遠元

武蔵国足立郡を本拠とする足立氏の出身で、源頼朝
拳兵以前から、源氏の家人であったと考えられています。石橋山の合戦で敗走した源頼朝は、安房国・上総
 国・下総国（いずれも今の千葉県）をまわって武蔵国へ
 と入ります。足立氏の本拠地である武蔵国内の武士た
 ちは平家と強く結びついていましたが、遠元は事前に
 頼朝の命を受け、頼朝軍を迎えに上がりました。

また武士として活躍する一方で、京都との縁もあり、**文筆に長けた人物**で
 あったと考えられます。娘の1人は京都の院の近臣に嫁ぎ、別の娘は畠山重
 忠や北条時房に嫁いでいます。文書の保管や政務の処理などを行う**公文所**が
 開設されると、中原親能・二階堂行政などと共に能力を発揮しました。



はったともいえ 09 八田 知家

常陸国新治郡八田（今の茨城県筑西市八
 田）を本拠とする武士です。兄妹に平家や
 院に仕え京都で活躍していた宇都宮朝綱
 や、源頼朝の乳母をつとめた寒川尼がいま
 す。

一族は**京都との人脈**を持ち、教養をそなえていたと考えられます。兄・朝
 綱に先んじて源頼朝のもとに馳せ参じ、重用されています。
 いでは**東海道大將軍の一人**として活躍しています。

知家の屋敷は大倉幕府の南御門付近にあり、京都からの使者や鎌倉殿の滞
 在場所としても使われていました。知家の嫡男・知重は小田氏を名のり、常
 陸国の守護職や所領を持ち、**鎌倉時代を通じて繁栄**していきましました。

鎌倉殿・13人の重臣ゆかりの地

鎌倉殿とそれを支えた北条義時をはじめとする13人の重臣ゆかりの地をご紹介します。

法華堂跡（北条義時墓） 西御門・
二階堂エリア

ゆかりの人物：北条義時・三浦義澄・
大江広元



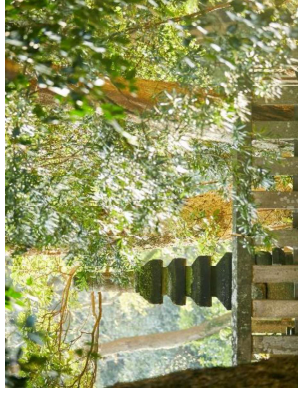
北条義時の没後、供養のために建てら
 れた墳墓堂（法華堂）の推定地です。平
 成17年（2005年）の発掘調査で堂跡の
 遺構が発見されました。堂は鎌倉時代後
 期には廃絶したとみられています。

背後には、宝治合戦で敗れた三浦一族
 にゆかりがあると伝わり今も供養され
 ている「やぐら」や、江戸時代以降に整
 備された大江広元等の墓所があります。

鎌倉市西御門2-757

法華堂跡（源頼朝墓） 西御門・
二階堂エリア

ゆかりの人物：源頼朝
 源頼朝の墳墓堂（法華堂）跡です。頼
 朝の生前に持仏堂として建てられ、没後
 に法華堂と呼ばれるようになりました。



現在頼朝墓のある平場がその跡地であ
 ると考えられています。武家の精神的な
 拠り所として鎌倉幕府滅亡後も維持さ
 れました。

鎌倉市西御門2-687

西御門・
二階堂エリア

来迎寺（西御門）

ゆかりの人物：源頼朝



江戸時代、源頼朝の法華堂に安置され
 ていた地蔵菩薩・如意輪観音・跋陀婆羅
 尊者の三軀等を祀ります。地蔵菩薩像は
 もと報恩寺の本尊で、後に太平寺・法華

和暦(西暦)	年齢	できごと
建仁3年(1203)	41歳	比企氏一族を討つ。 源実朝が3代目鎌倉殿となる。 北条時政が大江山元とともに政所別当となる (執権就任)。
元久元年(1204)	42歳	源頼家が伊豆の修禪寺で殺害される。
元久2年(1205)	43歳	畠山重忠を討つ。 北条時政が、平賀朝雅の將軍擁立に失敗し出家、伊豆へ下る(牧氏の変)。
正元元年(1209)	47歳	この年、はじめて政所の別当として史料にみえる。
建保元年(1213)	51歳	和田義盛との合戦に勝利し、侍所別当を兼ねる(執権の確立)。
承久元年(1219)	57歳	源実朝が頼家の子である公暁に暗殺される。
承久3年(1221)	59歳	義時追討の宣旨が発せられる。 承久の乱が勃発、幕府側が勝利する。
元仁元年(1224)	62歳	死す。

なかはらの ちかよし
中原 親能

10

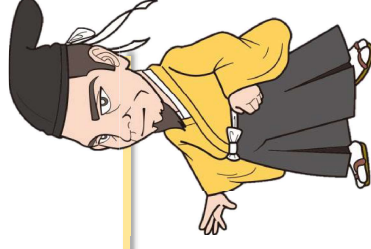


出自については諸説ありますが、大江広元と同じく、儒学を専門とする京都の下級貴族・中原広季の養子であったとされています。幼少期を相模国で過ごし、同国の有力武士・波多野氏の婿になりました。そのため**溢人時代の源頼朝と知り合い**で、頼朝の挙兵に際し京都の人々の中でいち早く駆けつけています。京都との人脈を持っていたことから、度々上洛し、**鎌倉と京都の連絡役**として活躍しました。

また親能の妻は頼朝と政子の娘・三幡の乳母で、親能自身も目をかけていました。しかし、三幡を天皇に入内させる計画が進められている中、頼朝が亡くなり、その半年後に三幡も14歳の若さで世を去ります。**親能は出家**し、自らの屋敷があった亀谷の堂の傍らに葬ったと伝わります。

おおえの ひろもと
大江 広元

11



儒学を専門とする京都の下級貴族・中原広季の養子で、実父は大江山維光とされています。京都で**朝廷の実務官**人としてキャリアを重ねていきましたが、源頼朝が挙兵すると、兄弟の中原親能の縁もあって、鎌倉に下向します。戦地には赴かず、京都との交渉や鎌倉幕府の整備に活躍し、政務処理を行う**公文所**や**政所**が設置されると、その**別当(長官)**となりました。

頼朝の死後、源頼家にも側近として仕えますが、有力御家人らの対立から一線を引く立場をとりました。続く源実朝の代になると、**北条氏との協調関係**を保ち、鎌倉殿の政治を補佐するとともに、和歌などの文化的な活動も支えました。

承久の乱では、京都への進撃を強く主張し、幕府方の勝利に貢献しました。

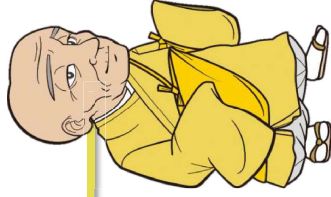
みよし やすのぶ
三善 康信

12

京都の下級文人貴族・三善氏の生まれで、源頼朝挙兵以前は京都でキャリアを積みました。叔母が頼朝の乳母であった縁から、流人時代の頼朝に、頻繁に使者を送り京都の情勢を伝えていました。以仁王の敗走と源氏追討の命令が出ていることを頼朝に伝えたのも康信で、奥州に逃げるよう助言しています。

鎌倉に下向してからは、頼朝のもと、京都でのキャリアを生かし、文書作成などの実務や寺社関係の職務に携わります。さらに訴訟機関の問注所が設置されると、初代の執事(長官)に就任し、鎌倉幕府の組織の整備に貢献しました。

承久の乱が起こると、京都へ進撃することを提案した大江広元を後押しし、勝利に貢献しました。



にかいどう ゆきまさ
二階堂 行政

13

二階堂氏は東海地方を中心に発展した工藤氏の分流です。外観が二階建ての堂にみえることから二階堂と呼ばれる堂が建つ永福寺の近くに邸宅を構えていたことから、二階堂氏を名乗りました。今も史跡永福寺跡の辺りには、二階堂という町名が残っています。行政と源頼朝は母方を同じ熱田大宮司家とし、その縁で頼朝が行政に声をかけ、鎌倉に下向したと考えられます。

鎌倉に下る以前は京都でキャリアを積んでおり、その経験から、鎌倉では公文所の設置や寺社の差配、幕府の財政などの業務に携わりました。政所が設置されると、長官の大江広元のもとで、実務能力を発揮していたと考えられます。頼朝の死後は、源頼家を支える13人に選ばれましたが、これに最後に『吾妻鏡』からは姿を消します。

北条義時 略年表

和暦(西暦)	年齢	できごと
長寛元年(1163)	1歳	誕生
治承4年(1180)	18歳	源頼朝の挙兵に従い、山木兼隆 <small>まきかみかみ</small> を討つ。石橋山合戦で敗れ、安房へ逃れる。
養和元年(1181)	19歳	頼朝の寝所の警護役に選ばれる。
寿永2年(1183)	21歳	嫡子、泰時が生まれる。
元暦元年(1184)	22歳	源範頼に従い、平家追討に従軍する。
文治元年(1185)	23歳	壇ノ浦の合戦で平家が滅亡、源頼朝が諸国に守護地頭を設置する。
文治5年(1189)	27歳	奥州合戦に従軍する。
建久3年(1192)	30歳	源頼朝が征夷大将軍となる。比企朝宗 <small>ちきあさむね</small> の娘、姫の前を娶る。
正治元年(1199)	37歳	源頼朝が亡くなる。 2代目鎌倉殿・源頼家を支える13人が選ばれ、義時もこれに加わる。 梶原景時が敗死する。